

動乱の戦国を
巨大なる
幻が行く

黒澤 明監督作品

影武者

武田信玄は
「己の死を三年間
秘密にせよ」と遺言した。
これは、
偉大な信玄の影武者として
壮烈に生きた男の物語である。

■海外版エグゼクティブプロデューサー
フランシス・コッポラ
ジョージ・ルーカス

製 作 ■ 黒澤 明

脚 本 ■ 田中 友幸

〃 ■ 黒澤 明

〃 ■ 井手 雅人

東宝映画 ■ 提携作品
黒澤プロダクション
東宝株式会社 ■ 配給

東宝

4月12日(土) 特別ロードショー

●銀座一丁目

テアトル銀座

TEL(561)7938

かいせつ

「デルス・ウザラ」から五年、黒澤明監督が一二億四八〇〇万円もの巨費を投じて戦国時代劇「影武者」を製作した。

戦国時代、武田信玄は死に臨み、己無き後の武田家の前途を危惧し、その死を三年間秘密にせよと遺言した。これは、偉大な信玄の影武者となったある男の奇妙な人生と、信玄と対峙していた織田信長、徳川家康との興亡を勇壮、絢爛に描くスペクタクル時代劇である。

信玄とその影武者の二役を仲代達矢、その他の配役はオーディションによって、既成の俳優にとられず異例のキャストティングが組まれた。

二カ月間のリハーサルの後、六月下旬の姫路城ロケから撮影が開始。熊本城、伊賀上野、京都、御殿場、北海道と全国縦断ロケが行なわれ、セット撮影も含めて八カ月間の撮影が敢行された。長篠の合戦をはじめとするスペクタクルシーンは、牧場を借り切つて、一六八頭の馬を購入。三カ月間の調教の後、北海道勇払原野で十月上旬から七週間の撮影がくり広げられた。

また、二〇世紀フォックスの配給により、邦画史上初の全世界公開が行われる。このエグゼクティブ・プロデューサーに、米二大監督のフランシス・コッポラ（地獄の黙示録）とジョージ・ルーカス（スター・ウォーズ）が決まっている。

これまでの日本映画の枠をはるかに越えて、「影武者」は黒澤映画の感動と魅力がすべて結集される。これは八〇年に日本から世界に送る黒澤明のメッセージである。

ものがたり

天正元年 冬。武田信玄は野田城攻めの一夜、鉄砲で狙撃され重傷を負った。信玄狙撃の報は三河の家康の許に飛んだ。そして、尾張の信長に、越後の謙信に……。彼



影武者

黒澤明監督作品

らは問者を放つて、信玄の生死を探った。信玄なくば戦国の版図は一変する。

甲斐に帰る信玄には最期の時が訪れていた。死に臨んで、武田の行末を案じ、遺言を与えるのであった。

「……われ死すとも、三年は喪を秘し、領国の備えをかため、ゆめゆめ動くな」

死を秘すことは難事であった。弟の信廉は影武者をたてるといふ苦肉の策を計じた。実は信廉は信玄と瓜二つの男をかねてから用意していた。無頼の盗人ではあったが、どこか不思議な力があり「影」は信玄の側室でさえ見分けがつかなかった。信長、家康の間者たちも信玄健在と報じた。

「影」は信玄として振舞い、時には武田の武將たちをも動かし、信玄の孫・竹丸を愛するようになっていった。こうした成行に内心いら立っていたのは勝頼であった。実子であるにもかかわらず、家を継げず、名もない「影」へ服従せねばならない。

信長は武田の動きが解せなかった。自分が四方に敵を受けている今こそ、なぜ「風林火山」の旗は甲斐を動かさずしないのか。家康も同じ思いであった。信玄の生死を確かめるため、家康は武田の出城へ兵を進めた。勝頼は、独断で打つて出た。目指すは高天神城。信玄も落せなかつた堅城である。勝頼軍だけでは落せなかつたと思えない。武田軍はやむを得ず、「風林火山」の旗を立て、勝頼軍の後方に陣を構えた。「影」は乱戦のさなか、山の如く動かず、信玄ありと思わせた。

「影」に不慮の事態が起つたのは二年の



さすが信玄
死してなお三年の間
よくぞ
この信長をたばかった！

月日が過ぎようとする頃であった。信玄だけが御し得た荒馬「黒雲」から振り落とされ、川中島の合戦での刀傷がないことが側室たちに知られてしまった。もはやこれまで。信玄の死は公表され、勝頼が武田の当主となり、「影」はただの男に戻った。

天正三年 春。勝頼は武田の全軍二万五〇〇〇を率いて長篠に向かった。信長、家康の連合軍との合戦である。しかし、連合軍には鉄砲という新兵器による戦術が組み込まれていた。無敵を誇った武田騎兵隊が次から次へと崩壊してゆく。戦いの歴史が変つたのである。だが、勝頼は信じられない目でそれを見つめ、突撃をくり返した。この地獄のような戦場に、武田軍の後を追って飛び出してゆく一人の男がいた。あの「影」であった……。

キャスト

武田 信玄……………仲代 達矢
その影武者……………山崎 努
武田 信廉……………萩原 健一
武田 勝頼……………油井 孝太
武田 竹丸……………山崎 孝太

《侍大将》
山崎 昌景……………大滝 秀治
馬場 信春……………室田日出男
内藤 昌豊……………志村 隆之
高坂 弾正……………杉森 修平
原 昌胤……………清水のぼる
跡部大炊助……………清水 紘治
小山田信茂……………山本 亘

《近習番頭》
土屋宗八郎……………根津 甚八
雨宮善二郎……………阿藤 海
原 甚五郎……………島香 裕

《小姓》
甘利おくら……………金窪 英一
友野 又市……………宮崎 雄吾

《信玄側室》
於うの方……………倍賞美津子
お津瀨の方……………桃井かおり
竹丸付き老女……………音羽久米子
温井 平次……………井口 成人

織田 信長……………隆 大介
丹羽 長秀……………山下 哲生
森 蘭丸……………山中 康仁
徳川 家康……………油井昌由樹
石川 数正……………土信田泰史
本多平八郎……………曾根 徳
酒井 忠次……………松井 範雄
上杉 謙信……………清水利比古

田口 利部……………志村 喬
医 師……………藤原 釜足
百 姓……………常田富士男

《乱波》
傀儡 子……………田辺 年秋
塩 売 り……………山口 芳満
托 鉢 僧……………江幡 高志
信玄を狙撃した鉄砲足軽……………杉崎 昭彦

東宝映画 提携作品
東宝プロダクション
東宝株式会社 配給

